

晴れたらいいね

「水稻新品種の開発」

7月下旬から稲の交配を行っています。毎年、いろいろな組み合わせで交配を行い、できた種を播いて育った稲から、栽培しやすく、多収、良食味の品種を何年もかけて選んでいきます。

大粒で冷めても美味しい「ひゃくまん穀」や大吟醸酒に適した「百万石乃白」も約10年の歳月をかけて選び抜かれ、市場デビューを果たしました。

(写真:農林総合研究センター 高田 茉莉奈)

目次

特集

県産農林水産物ブランド化推進条例の制定について **P2**

現地ルポ

南加賀、中能登 **P4**

東京事務所だより
大阪事務所だより **P5**

行政情報

P6

いしかわのホットな
農業人 **P8**

いしかわ
農業総合支援機構だより **P9**

研究ノート

P10

県産農林水産物ブランド化 推進条例の制定について

農業政策課ブランド戦略推進室

1. はじめに

石川県では、これまでにぶどう「ルビーロマン」や原木しいたけ「のとてまり」、「能登とり貝」などのブランド化に向け、県と生産者、関係機関が一体となって取り組んできました。その結果、これらの品目は、市場から高い評価をいただいているところです。

この他にも本県には、量は多くないものの、優れた特長を有する農林水産物が数多く生産されています。

これら本県の魅力ある農林水産物のブランド化をより一層進め、農林水産業を産業として発展させるだけでなく、本県の魅力向上につなげるため、全国初となる「石川県の特色ある農林水産物を創り育てるブランド化の推進に関する条例」を制定しました。

2. ブランド化に向けて

条例では、将来にわたって特色ある県産農林水産物のブランド化を推進するために、以下の基本方針を掲げています。

①ブランド品目の生産振興

⇒需要に応じた品質・数量を持続的に提供するための生産体制を整備

②優良な種子等の確保

⇒生産者に対して必要な種子等を安定供給するため、優良な種子等を確保

③新たにブランド化する県産農林水産物の開発・育成

⇒市場が価値を認める特長を有する品目の品種開発・系統選抜や技術を確立

④ブランド品目の商品開発・販路開拓

⇒消費喚起・提供の方法等、販売上の課題を解決

⑤ブランド品目に係る知的財産の保護

⇒商標権、地理的表示(GI)などの知的財産権の取得や管理体制の構築を推進

⑥ブランド化の推進に必要な人材の育成

⇒ブランド化に関与する者に対し、必要な知識・技術の習得を推進

⑦ブランド品目に係る情報の発信

⇒市場等に対して品目の特長や提供時期などの情報を効果的に発信

⑧ブランド化推進に対する県民の理解の醸成

⇒県民に対してブランド品目自体や情報に触れる機会を拡大

3. ブランド品目の認定

ブランド化の取り組みを効果的に進めるため、ブランド化に意欲ある産地の優れた特長を有する農林水産物のうち、県がブランド化に関与すべき品目を「いしかわ百万石食材」として認定し、品目毎に生産振興や商品開発などを図るとともに、多彩な品目の一体的な販路開拓や情報発信を行っていきます。

ブランド品目の認定に当たっては、

①同じ品目との間に有意な差がある特長を有していること

②生産する産地が形成され、品質管理・安定供給の体制が整備されていること

を要件に、マーケティング専門家や流通関係者など有識者の意見を踏まえて手続きすることとしています。

さらに、「いしかわ百万石食材」として認定されたブランド品目のうち、本県のブランドイメージを牽引するものを「百万石の極み」とし、さらなるブランド価値の向上を図ろうとするものを「百万石の恵み」とすることとしています。

「百万石の極み」については、本県のブランドイメージの牽引役として、トップブランドの地位を確立するための需要に応じた生産・販売の強化の取組、「百万石の恵み」については、更なるブランド価値の向上を図るため、マーケティング等の専門家の助言を受けて行う戦略的な生産・販売上の課題の解決に対してそれぞれ支援していきます。

4. 今後について

新型コロナウイルス感染症の影響により外食需要等が減少する中、「いしかわ百万石食材」の認定については、その魅力をより効果的に発信できる時期を見極めつつ、公募など認定に向けた作業を進め、生産者の栽培意欲の醸成を図るとともに、広く県民の皆様にも本県食材の魅力を理解していただけるよう、取り組んでまいります。



現地のポ

水稻農家の所得拡大を目指したたまねぎ栽培

南加賀発

南加賀農林総合事務所では、平成28年からJA能美と連携し、水稻農家向けの所得拡大品目として、たまねぎ栽培に取り組んでいます。

たまねぎは水稻との作業競合がなく、機械化体系が確立しており、水稻農家取り組みやすいことから、重点推進品目に位置付け、生産拡大に取り組んできました。

これまで、定植機、収穫機等の作業機械を導入し、作付けを推進してきたところ、栽培面積は6.8haまで拡大しました（H28：0.8ha）。

一方、急激な面積拡大により、乾燥、選別・調製作業に係る機械や労力の不足が問題となったため、昨年、乾燥機、選別機、葉と根を切り揃える調製機を新たに導入し、生産性向上を図っています。

こうした取り組みにより、新たに栽培を始める農家も増えており、生産農家は25名まで増加しています（H28：5名）。

当事務所では、今後ともJA能美と連携し、栽培技術の向上や生産体制の充実を図りながら、水稻農家の所得向上を図ることとしています。



調製作業の様子

「ルビーロマン」の生産拡大に向けて

中能登発

生産者6名で構成されるJA能登わかばぶどう部会は、ルビーロマンの栽培経験3年以内の者が多くを占める県内で最も若いルビーロマンの産地です。

これまで栽培技術については、中能登農林総合事務所やJAが個別に指導してきましたが、生産者間の意識や出荷実績の差が大きいことが課題となっていました。

このため部会では、今年度初めて栽培講習会等を開催し、管理ポイントを確認するほか、先輩生産者が経験の浅い生産者へ成功・失敗事例を教えるなど、活発に情報交換を行い、栽培意欲のさらなる向上に繋がりました。

また、運搬に多くの時間と労力を要し、荷傷みの一因となっていた生産ほ場から遠い集荷場の場所についても協議を重ね、今年度から距離の近い施設を利用できることとなりました。

こうした場合は生産者から非常に好評で、継続を求める声があることから、当事務所では、部会と関係機関の一層の連帯強化とともに、栽培技術や生産意欲の向上に向けた取り組みを支援していきます。



JA能登わかばぶどう部会 ルビーロマン栽培講習会

東京事務所だより

卸売市場における「新型コロナウイルス感染症」対策

首都圏では、ルビーロマンや加賀野菜など、量は少なくも特色ある食材が流通していますが、新型コロナウイルス感染症による影響の長期化が懸念されています。このため、青果物の取扱量日本一の大田市場を訪ね、現在の感染防止策や今後の動向について話を伺いました。

場内では、マスク着用を呼び掛けるポスターがあちらこちらに貼られ、サンプル品にはラップが掛けられています。試食宣伝も禁止です。「社員の出張は制限があり、ウェブ会議を奨励しています」と市場関係者。これらの取り組みは当面継続されるそうです。

別の関係者からは「石川県には特徴ある品目が多く、新幹線が開通して認知度が上がってきている。飲食店向けは当面厳しい状況が続くと思われるので、ウィズコロナを見据えた一般向けの販売・宣伝も検討してみてもどうか」との提案もありました。

当事務所では、県産食材の首都圏への販売促進に資するべく、今後も日々変わる市場動向等の情報収集を行っていきます。（掲載情報は7月17日時点のものです）



7月30日に行われたルビーロマン初競りPRも、人数を制限し、検温をして臨みました。

大阪事務所だより

石川県産すいかを人型ロボット「ペッパーくん」とPR

石川県産すいかは7月の京阪神市場すいか取扱量の4割以上を占めています。例年であれば、この時期、試食による販売促進を行っていますが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から試食を自粛しています。

このため、全農いしかわとJA金沢市では、新たな取組として人型ロボットのペッパーくんを使ったすいかや産地のPRを企画し、京阪神市場の卸売会社等からなる京阪神石川会の会員と連携して、京都市内の量販店で7月10日から12日にかけて実施しました。

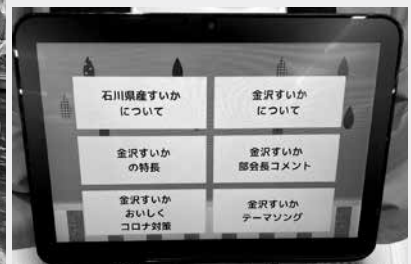
ペッパーくんは「石川県産すいかについて教えちゃいますよ」とお客さんの顔をみて呼びかけて、胸元のタッチパネルに掲示されたPR動画をタッチするとそれぞれの映像や音声が流れるようになっています。

お客さんは、珍しそうにペッパーくんを見て話しかけたり、PR動画を見たりしていました。実施した店舗からもお客さんの興味をひいて売り上げもよかったと好評でした。

今後も様々な工夫を加えながら消費者の皆さんに県産農産物の特長や産地の取組のPRを行っていきます。



ペッパーくんと産地PRの様子



タッチパネルと6つのPR動画

● GAP（農業生産工程管理）を実践しよう！

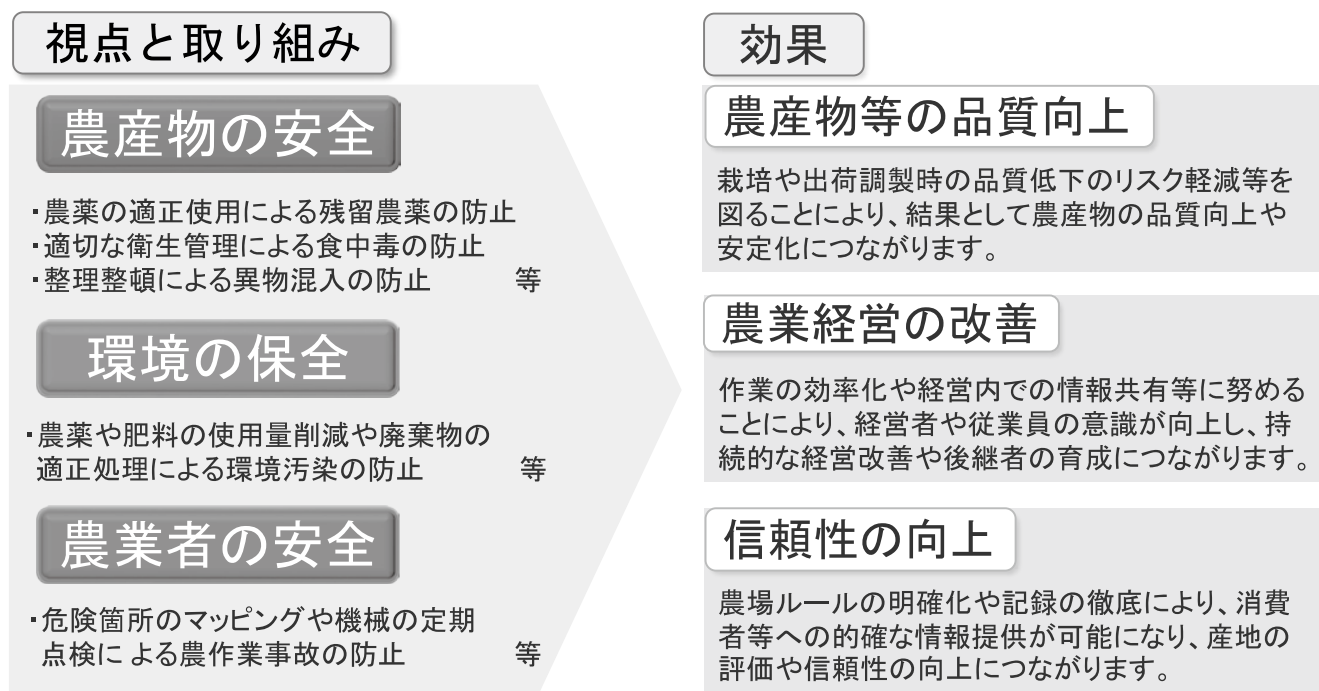
生産流通課 連 秀馬

石川県では、農産物の信頼を確保する仕組みとして、GAP（Good Agricultural Practice：直訳で「良い農業の実践」）の取り組みを推進しています。

GAPは、農業者自らが、農業生産活動を行う上で必要な法令や規則を遵守するとともに、農業生産活動に潜む様々なリスクを未然に防ぐため、農場管理のルールを定めて経営内で共有し、持続的に改善していく取り組みです。

また、GAPの先進地である欧州の生産者や消費者は、GAPは「農業生産者として守るべき最低限のルール」と認識しており、近年では、そうした考え方や取組みが世界的に支持され、日本国内においても普及が進んでいます。

<GAPの視点と取組み、及びその効果>



<いしかわGAP認証を取得しましょう！>

近年、取引先の信頼度を推しはかる手段の一つとして、大手流通業者等と取引する際にGAPの取り組みを求められるようになってきました。販売先によってはGAP認証を必要とする場合もあります。

石川県では、平成30年度に初心者でも取り組みやすい「いしかわGAP認証制度」を制定し、GAPの普及に努めてきました。現在は、54経営体（280農場）がいしかわGAP認証を取得しており、認証された農業者からは、「自分では気がつかない農作業事故の危険が認識できた」「農場を清潔に保つことで、作業を効率化できた」「県の認証を取得することで、取引先から評価を受けた」などの声をいただいています。

石川県では、今後とも農家の経営強化や取引先から信頼を得る取り組みとしてGAPを推進します。県農林総合事務所及びJAには多くのGAP指導員を配置していますので、GAPについて不明点などがありましたら、お気軽にご相談ください。

● ため池の防災対策の取り組み

農業基盤課 能登 史和

農業用のため池は、県内に2,331箇所、そのうち下流に人家等があり、被災した際に人的被害を及ぼすおそれのあるため池（防災重点ため池）は1,286箇所と意外と私たちの身近にもたくさん存在しています。

平成30年7月豪雨災害では、全国で32箇所のため池が決壊し、広島県では家が流され、3歳の女児が死亡しました。今年7月に九州を襲った豪雨災害でもため池の決壊が相次ぎ、あらためて近年の大雨や地震に対するため池の安全性の確保が重要視されています。

このような状況の中、昨年7月に、ため池の所有者等による県への届け出を義務付け、適正管理の努力義務を課した「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が施行されました。

法律では、所有者等に届け出を義務付け（第4条）、適正管理の努力義務を課し（第5条）、適正に管理されていない場合は県による勧告（第6条）や県や市町が立ち入り調査（第18条）をできるとしています。

県では、法律に基づきため池の適正な管理が図られるよう周知するとともに、利用されておらず下流に人家等があるため池計154箇所については、令和元年度から3か年で全て廃止することとしています。昨年度は、63箇所を廃止し、今年度は56箇所を廃止する計画です。（右の写真は昨年度廃止したため池の一例）

また、県では市町等と連携して、昨年度までに全ての防災重点ため池のハザードマップを作成し、周知に努めるほか、ため池の点検、老朽化しているため池の堤防の強化、ため池の耐震工事等を行っています。

これらの対策を進め、さらなる県民の安全・安心の確保に努めたいと考えています。

これらため池の法律や防災工事に関する事など、ご不明な点がありましたら最寄りの市町農政担当課か農林総合事務所までお問い合わせください。

ため池廃止事例
～七尾市中島町～



いしかわの ホッとな農業人

能登町 平美由記さん（令和元年度「北陸農政局男女共同参画優良事例表彰」北陸農政局長賞受賞）

平美由記さんは、能登町特産のブルーベリーの生産者として、生食用果実の販路の拡大や、規格外果実を加工して販売するほか、町内の生産者から規格外果実を仕入れ、加工品の原材料として販売しています。さらに、県内企業や大学と連携して、染物など食品以外の商品を開発することにより、地元の生産者の所得向上と需要拡大に精力的に取り組んでいる点が評価され、令和元年度「男女共同参画優良事例表彰」北陸農政局長賞を受賞されました。

●活動の展開

平さんは能登町（旧柳田村）のご出身です。進学で一旦故郷を離れたものの、結婚を機に帰郷。子育てとパートをしながら父親の農園を手伝っていましたが、平成22年に父親が他界。「父のブルーベリーを守りたい」という思いで農園を継承しました。

はじめは農機具や肥料のことも分からず、手探りで作業をしていましたが「このままではだめだ」と思い立ち、周りの農家に指導を仰ぎ、講習会に参加して、生産について学びました。このような中で「ブルーベリー農家を続けるためには収益性の向上が必要」と強く感じ、生産・出荷だけでなく、県内のケーキ屋への卸売や加工場の整備など、販売・加工にも積極的に取り組んできました。

新たに、大学と連携してブルーベリーを使った

染料を開発するほか、障害者就労移行支援施設と連携してブルーベリーカレーを発売するなど、様々な分野の人々と協力しながら、ブルーベリーと加工品の需要拡大に精力的に取り組んでいます。

さらに、町内の生産者から規格外果実を仕入れ、加工品の原材料として販売することで、地元の生産者の所得向上にも貢献しています。

●今後の活動

平さんは「好奇心を持ち、一步踏み出すことで、人との縁が広がり、道が拓ける」と言います。そして「これからも挑戦を続け、縁を大切にしながら、新商品の開発や規格外果実の仕入販売の拡大などを進め、産地育成に貢献したい」と考えており、今後ますますのご活躍が期待されます。



農園で作業をする平さん



開発したブルーベリーソース

第45回 いしかわ農業振興協議会総会の 開催について

本協議会は、農業生産の担い手として意欲的な中核農家や生産・加工・販売に携わる農業関係者が一体となり、地域の農業を支え農村を守るとともに、農業振興に寄与することを目的とする団体で、会員2,249名（R2.7.3現在）が各種研修や交流活動により自己研鑽に励んでいます。

去る7月3日、第45回総会が開催されました。総会では、元林会長の挨拶に続き、来賓の谷本知事、稲村県議会議長が祝辞を述べられた後、経営改善や事業多角化に意欲的に取り組み成果をあげている農業者や地域の農業振興に多大な貢献をされている農業者等を表彰する「中核農家経営改善・事業多角化及び地域農業振興共励会表彰式」、協議会の発展及び事業運営に多大な貢献をなされた方々を表彰する「会長感謝状贈呈式」が行われました。



共励会表彰受賞者



会長感謝状受賞者

【共励会受賞者（敬称略）】

- ・経営改善・事業多角化共励会優秀賞：(株)アグリとくみつ（白山市）、(有)ミヤモト（志賀町）、山崎強（輪島市）
- ・地域農業振興共励会優秀賞：前坂善治（小松市）、(農)俵ファーム（金沢市）
- ・新規就農者、青年農業者・女性農業者共励会奨励賞：(株)ファーム白山（白山市）

【会長感謝状受賞者（敬称略）】

中村長一郎（加賀市）、北山淑子（小松市）、紺多英夫（白山市）、西川暁（野々市市）、藤本浩（白山市）、源時男（金沢市）、松本秋一（津幡町）、喜綿雅之（かほく市）、野川外茂子（羽咋市）、井田啓一（七尾市）、武藤智子（能登町）、浦野政行（珠洲市）

また、続く議事では、令和元年度事業報告及び収支決算報告、令和2年度事業計画案及び収支予算案が承認されたほか、任期満了に伴う役員改選が行われ、新役員が承認されました。

【新役員（敬称略）】

会長：中谷内昭子（すず地区）、副会長：西出博章（加賀地区）、吉田孝之（金沢地区）、久保吉彦（ななか地区）、上木敏子（女性部〔加賀〕）、女性部会長：中村直子（女性部〔金沢〕）、顧問：元林秀夫（金沢地区）

女性で初めて本協議会の会長に就任した中谷内会長は、就任にあたり「新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大し、経済活動に大きな影響を与えています。我が国でも、外食需要が大きく減少するなど厳しい環境の中での営農活動となっていると思います。そのようなコロナ禍を乗り越えるため、まず私たちは、農業・農業者の基本に立ち返り、「安心」「安全」、更には「新型コロナウイルス感染症に負けずに健康で元気に過ごしてほしい」との願いを込めて、石川の美味しい食材を提供し、家庭に笑顔を届けたいと思います。」と抱負を述べられました。



第13代会長
中谷内 昭子 氏

フリージア新品種「石川f11号」の育成

農林総合研究センター 農業試験場 浅野 彩花

1. 背景・目的

石川県が育成したフリージア「エアリーフローラ」シリーズは、これまで10種類で展開しており、他にはない豊富なカラーバリエーションが人気となっています。開発当初より、花屋や市場関係者からは、結婚式や式典など様々な用途に使用可能な、純白の品種開発が求められていました。

既存の白色品種の多くは花色がクリーム色のものが多く、また、花弁の中央に大きく黄色い斑紋が入るため、純白ではなく、結婚式には利用できません。このため、花弁の中央に黄色い斑紋が入らない純白の新品種の開発に取り組みました。

2. 技術のポイント

(1) 育成経過

- ①平成24年4月に、花色は白色で花弁の中央に黄色い斑紋が入るが草姿に優れる「アントス」を母親、草丈は短いが花色は純白に近い「スーパーエレガンス」を父親として交配し、得られた約9千個の種子から系統を養成し、選抜を行いました。
- ②平成27年3月に、純白で花弁に黄色い斑紋が入らず、草姿が優れた1系統を選抜しました。

(2) 特性

- ①草丈は70cm以上で長く、花茎も3.7mm以上と太く、草姿に優れています
(写真1、3、表)。
- ②花弁の中心は薄黄色で着色が目立ちません(写真2、表)。

(3) 品種登録及び販売名称

- ①令和元年6月28日に「石川f11号(いしかわえふ11ごう)」として品種登録出願し、同年10月1日に出願公表されました(出願番号第34007号)。
- ②令和2年3月に販売名称を「エアリーホワイト」に決定し、市場デビューしました。



写真1 「石川f11号」栽培風景



写真2 「石川f11号」花序の全体



写真3 左から「石川f11号」、「アントス」、「スーパーエレガンス」の植物体全体

表 「石川f11号」の特性(2019)

品種	定植日 (月/日)	開花日 (月/日)	草丈 (cm)	花茎の太さ (mm)	花序の 花の数 (個)	花色	花弁の 黄色い 斑紋の有無
石川f11号	11/2	4/5	71.1	3.7	10.3	純白	無
母)アントス	11/2	4/3	56.7	3.5	8.3	白	有
父)スーパーエレガンス	11/2	4/7	51.7	3.1	7.6	白	少

3. 成果の活用について

本県オリジナルフリージア「エアリーフローラ」シリーズのカラーバリエーションが増え、用途が広がることを期待されます。

石川県／農業情報誌

「晴れたらいいね」

に広告を掲載して **PR** ← **サービス・集客** しませんか？

自治体広告
ならではの
メリット

エリアを絞った情報発信

地域での知名度向上

自治体発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせは



092-716-1401

他エリア自治体広告も
お任せください！

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5 MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 **財源確保** [検索](#)

令和2年度 農業情報誌「晴れたらいいね」第1号（通巻第117号）

ご意見・ご感想をお寄せください（HPからも受け付けています）

令和2年9月発行 発行者 石川県農林水産部農業政策課



TEL.076-225-1661 FAX.076-225-1618

HPはこちら

メールアドレス e210100@pref.ishikawa.lg.jp

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nousei/suisin/haretaraiine.html>